

六 郷

○ひとりだちのできる たくましい生徒の育成
○人権感覚豊かな 思いやりのある生徒の育成

学校便り 2月号
令和4年 2月14日
松阪市立嬉野中学校
校長 山下隆久

卒業式って何?

毎年この時期になると、「卒業式」をどのように行うか、どのように準備していくか考えます。3年生にとって中学生の最後をどのように締めくくることが良いのだろうかと考えます。

正面玄関の花壇づくりなど、すでに3年生を送り出すための準備が1・2年生や教職員の中では始まっています。その柱が「卒業式」です。正式には「卒業証書授与式」と言い、卒業証書を授与する式典です。この行事は、学校教育の仕組みができあがった初めからある伝統行事です。これまで連綿と続いてきた、いってみれば学校の歴史そのものです。卒業証書の番号がそのあらわれの一つです。嬉野中学校今年度卒業生は102480人目から始まります。保護者や地域の皆様の中には、その一人だという方もいらっしゃるはず。その積み重ねの先に今年の卒業生が巣立ちます。

今年度も、来賓の方々には列席をご遠慮いただきますが、地域の皆様にとっては地域で育てた子どもの晴れ姿を、保護者の皆様にとっては我が子の成長を確認する場です。このような意義を持つ行事は他にありません。したがって学校の最大行事と考えています。

学校での指導は、「中学校を卒業する成長した姿」という“型”を示す必要があると考えて準備します。卒業生はその目指す姿を理解し、それを全力で表現するのです。立ち居振る舞い、身だしなみ、返事、ことば、合唱等、その全てに全身全霊を込める行事なのです。私は卒業生に、とびっきりの返事を要望します。それはなぜか、ぜひ一人一人に考えてもらい、答えを出してほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、今後とも引き続き、嬉野中学校の諸活動へのご理解と温かなご支援をお願い申し上げます。

嬉野中HPアドレス <http://www.ureshino-matsusaka.com/ureshino/>



卒業式に彩いを！「追肥(ついひ)」1月30日(日)



卒業式に向けて、テニス部女子のみなさんが豊地の清水さんに教えていただき「追肥」をしました。植物の生育中に足りなくなる栄養を追加することが「追肥」です。

地域の方も花壇ボランティアとして参加していただきました。12月に植えた花苗が2月のいまでは少し成長しました。3月7日卒業式のときの鮮やかな彩りが楽しみです。

水やりは剣道部から女子テニス部に引き継がれました。



文化的活動表彰

- 第9回松阪市「図書館を使った調べ学習コンクール」【最優秀賞】前田千依里
- 第12回津市長 St.Joseph 英語スピーチコンテスト【第2位】ドリーボ岸葉弥
- 松阪市科学作品展【特選】前川綾菜、前田千依里【入選】多田侑汰、水谷慶佳
- 読書感想文松阪地区コンクール
【最優秀】大西永梨奈【優良】北口明香里、能登順也、井坂世那
【佳作】青木かすみ、前田千依里、山際颯太、野口心、水谷天音
【校内入選】長野葵、水谷初花、山中神楽、瀧本祥真、山邊芽生、
藤本彩杏、四竈実乃
- ありがとう三行詩
【優秀賞】葛輪一巴、神田梨太郎【優良賞】大原咲貴、杉浦実桜
- 法務省第71回社会を明るくする運動 作文コンテスト
【松阪地区推進委員会委員長賞特別賞・三重県厚生保護女性連盟賞優秀賞】久保日佳莉
- 第59回JA共済三重県小中学生書道コンクール【条幅の部銅賞】藤田侑華
- 全国中学生人権作文コンテスト三重県大会予選【優秀賞】瀧本祥真
- 野生生物保護啓発ポスターコンクール【入選】田中聡真



やればできるDAY! 2.4

東京オリンピック代表 川端 魁人さん

「目標を達成するために」



中原小で担任の先生が高橋正寛先生でしたという川端魁人さんに講演していただきました。400mを走り終えると39度の熱があるとき全力疾走した感じと例えるぐらい体力や心の限界に挑む中でも、今まで積み重ねてきた自信や大会ボランティアの方の声掛けでリラックスできた振り返る前半のオリンピック話は、興味津々でした。

後半のオリンピック出場のために川端先輩が実践したこの話は、陸上部の後輩である杉山大知主将が「陸上だけでなく、普段の生活でも必要なことや実になること、生かせることが多くありました。」と言う内容でした。①目標を紙に書き出す、②目標をポジティブな言葉とともに口に出す、③時間を守るなどの自己管理能力を高めるという三つを挙げ、「スポーツでも勉強でも自分を信じてやり続けてください!」と私たちに伝えていただきました。講演後、各教室や陸上部の練習に来てくださり、素敵な出会いの時間でした。



「やり続けた経験」は自分の財産 川端魁人さんの言葉より